

日本語の会話において長いターンを構成する手続き – 「発話の冒頭付近における内容の予告」「前提を述べるための談話標識の表示」を中心に –

花村 博司(鈴鹿大学)

1. 研究の背景と目的

会話におけるターンの長さは決まっていない。一つの単語のみで終わることもあれば、長い文や複数の文を続けて発話することもある。本発表では、会話においてターンが長くなるときに現れる手続きを分析し、日本語母語話者による長いターンの構成を明らかにする。これまで、相互行為上の展開の中で複数のターン構成単位を使う活動としての物語（話し手が経験した出来事を会話の中で再構成すること）を取り上げた研究では、「物語の前置き」や「前置きの前置き」といった手続きが明らかになっている。言語教育でも、自己表現のための長いターンを習得する必要性が指摘され、物語の構成方法が指導されている。しかし、物語以外でターンが長くなるケースもあり、ターンが長くなること自体を聞き手に伝える手段の様相は明らかになっていない。

あらかじめ話題が決められているという特徴を持つ『日本語話題別会話コーパス：J-TOCC』には話題ごとに各話者の「話題精通度」が付与されている。この平均が最も高い「1. 食べること」の全データを研究対象とし、筆者が収集した話題が決まっていない接触場面会話における日本語母語話者の発話と適宜比較する。

2. 先行研究

長いターンについては、会話分析において「物語を語る」場面が取り上げられることが多い。物語を語るスペースを確保するため、物語の前置き(Sacks, 1974)や前置きの前置き(Schegloff, 1980)といった手段が用いられることがある。物語の前置きでは「部分的報告」(串田, 2006)が最初に発話される。例えば「この間、大変だったんだよ」という、ある経験への評価の部分のみを先に報告し、その評価に至った経験の内容を後から語るという発話デザインである。また、前置きの前置きは、例えば「ちょっと聞いてもいいですか」のように、これから行うことをあらかじめ予告したうえで、「さっき2回生って言ってたと思うんですけど」のような、予告した行為（ここでは質問）のために必要な確認の前置きを挟み、「なぜ2年生と言わずに2回生と言うんですか」などと質問するような発話デザインである。これらは、いずれも複数の発話を必要とする際、そのスペースを確保するために取られる手続きとして分析されている。物語の前置きに近いものに、悩みごとを語るスペースを確保する手段として発せられる「糸口質問」(戸江, 2008)がある。また、林(2008)では、前置きの前置きと同様の手段として、日本語の場合、指示詞「あれ」が用いられることがあると指摘されている。

言語教育研究においては、「自己表現のための長いターン」について、その習得の必要性が指摘されている。多くの言語教育コースでは、「外国語で自己表現ができるようになる」という目標が掲げられているが、挨拶や依頼、謝罪などの短いターンを作る訓練だけでは、複雑な説明や経験の語りといった、自己表現のための長いターンが自動的に作れるようにはならず、短いターンだけでは外国語で自己表現ができないため、学習者にはフラストレーションがたまると言われており(Brown & Yule, 1983)、日本語教育でも、経験談を語る際に構成を意識させるような指導が行われている(木田・小玉, 2001)。CEFRでは、話し言葉の流暢さについて、A2レベルの「短い発話であれば自分の述べたいことを理解してもらえる」「短いやり取りを行うことができる」段階から、B1レベルの「ある程度の長さの、理解可能な発話を行うことができるが(中略)比較的長いものになると(中略)間があいたり、発話の修復を行うのが目立つ」段階を経て、B2レベルの「長く、複雑な一連の発話であっても、非常に流暢で、表現に余裕があることが見られる」段階、C2レベルの「自分の言いたいことを、長い発話でも、自然で、苦勞なく、詰まらずに、流れるように、表現することができる」段階に至る基準が示されており(吉島・大橋訳・編, 2004)、長く流暢に話すことが言語能力の一つの指標とされる。

本発表では、物語の前置きや前置きの前置きのような手段を、長いターンを取る際にターンが長くなること

を聞き手に伝えるために用いられる手続きの一つとしてとらえ、日本語母語話者がどのような手続きを用いているのかについて分析する。

3. 研究の方法

分析には、あらかじめ話題が決まっている J-TOCC の「1. 食べること」600 分のデータ(中俣, 2021)を利用し、話題が決まっていない接触場面会話 384 分における日本語母語話者の結果(花村, 2022)と比較する。

話し手が手続きとして用いる表現が、どの位置で用いられているかを以下のように分類した。長い発話の冒頭、もしくは短い挿入連鎖を挟んだ長い発話の前のターンで、「この間、大変だったんだよ」のような長い発話の内容が予告された場合を A、同じ位置で、「え、だから、あの、俺、バイトの面接 3 回ぐらい落とされて」のように、談話標識を表示して前提となる事柄や補足を述べるような場合を B1、長い発話の途中で言いよどみ表現が表示されれば B2、長い発話の終了可能な箇所で言いさし表現が表示されたり発話文が倒置されたりすれば B3、発話の位置を問わず起こる言い間違い、言い直し、繰り返しなどを C とする¹。

「長いターン」は、ひとまず「話者ごとの 1 回のターンにおける平均文字数の 3 倍以上の文字数のターン」とした。3 という数字に根拠はないが²、ある話者のある会話において、比較的短めのターンの中に現れる長めのターンが抽出できる³。3 倍以上で抜き出すと、長いターンの出現割合は 4.8% であり、およそ 20 ターンに 1 回の割合で長いターンが出現している。これらの長いターンの中で使用されている手続きを分類し、接触場面会話における日本語母語話者の結果と比較したものが表 1 である。これらの違いについて、4 で検討する。

表 1 各データの長いターンにおける手続きの使用傾向

データ	A	B1	B2	B3	C	長いターン数	全ターン数
J-TOCC	116	454	417	428	165	558	11720
接触場面	17	19	110	106	61	155	2767

4. 分析結果・考察

話題が先行して決まっているかいないかの違いは、手続き A の出現頻度の差として現れ、前者において有意に多い ($\chi^2(1)=7.077, p<.01, \phi=0.100$)。話題決定済みの会話では、決まった内容に即した発話内容の探索に集中することができ、選んだ内容を予告するという順序で発話計画を立てやすい。一方、話題未決定の会話では、会話の流れに合わせながら次の話題探しを同時並行で行い、やり取りしながらの話題導入という順序で発話計画を立てなければならない。この違いが、後者における手続き A の少なさとなっていると考えられる。

会話例 1 では、19 で W-205-2F が「夢があって」という発話内容の予告から発話を開始し、発話末の「夢やねん」に至る長いターンを維持している。同様に、会話例 2 と 3 でも、長い発話の冒頭付近に「一時期さ、ブリチーズにはまって」「この前も香川に行って、うどんを食べてんけど」のような予告が見られる³。

手続き A には、会話の現場に即して瞬時に発する「即時文」も含まれるが、ターンが続けば「非即時文」が多くなる⁴。回想や提案といった情報を相手に伝えるまでの過程の複雑さが、結果的に非即時文を長くすると言われ、本研究でも「て形」や接続助詞などの手続き B3 によりターンを維持する過程が見られた。会話例 2 では、

¹ A には部分的報告や糸口質問が、B1 には前置きの前置きにおける「あれ」のような談話標識の表示が含まれる。発話中の談話標識類の使用を B としてまとめた。なお、J-TOCC ではラッチングの有無が不明なので、B3 についての分析は行わず、比較の対象からは外した。また、花村(2022)では、発話末で相手がターンをとらないために長い発話が続くケースも分析されているが、J-TOCC ではそのようなケースが起こっていないため、分析の対象から外した。

² 聞き手のあいづちは、話し手のターンに含めた。聞き手のあいづちは話し手の発話の中で「(W-205-1F: うん)」のように表記され、話し手のターン内での聞き手のあいづちは、話し手の発話の文字数としてカウントされる。したがって、厳密には話し手のみの発話が平均の 3 倍に満たないターンが含まれる可能性もある。しかし、あいづちも話し手のターンにおける聞き手のサポートであると考えられるため、話し手のターンに含めて計算する。なお、話者記号とコロンはあらかじめ削除した。

³ J-TOCC では A の手続きにおいて、「て」「たら」「けど」「から」などを伴う予告から発話が続いていくケースが多く、接触場面会話(花村, 2022)で見られた「来年から大変なんですよ」「JAL 乗ったことがあります?」のような部分的報告や質問による内容の予告が少ない。有意な偏りはあるものの効果量は小さいことから、1 会話あたりの時間の違いも踏まえ、更なる分析が必要である。

⁴ 岩崎・大野(2007)は、コミュニケーションの現場において、会話の流れに反応するなどして生じた感情や思考などを瞬時に発する文を「即時文」、そうでないものを「非即時文」として分析している。非即時文には、回想や提案などの複雑な情報が含まれており、ターン保持のため言い切りを避け、「て形」や「たら形」、接続助詞などにより節を続けていくことで文が長くなる。

会話例1 フランスパンの夢 (W-205-01)		
16	W-205-1M	ああ、イタリア行ったら、おいしいもん食べれるんかな。
17	W-205-2F	そう。イタリアに行ってピザ食べるか、もしくは、(うん) あの、フランスパンも好きやからさ。
18	W-205-1M	フランスパン。
19	W-205-2F	夢があって。(はい、はい) そう。フランスに行って、(うん) フランスパンを買います。(うん) フランスの、あの、パリ、何てったっけ、何かあの、エッフェル塔や、(うん) エッフェル塔見ながら、フランスパンをかぶりついて、フランスにある、あの、道を歩くっていうの、夢やねん。
20	W-205-1M	ああ。ね、それってさ、食べることと、その、見ることを同時にしたいっていうことだよな。
21	W-205-2F	そう。(ああ、ね) しかも、フランスで。

会話例2 ブリーチーズにはまっていた (E-303-01)		
91	E-303-1F	めっちゃそれ食べたい。
92	E-303-2F	やば。
93	E-303-1F	今、ほんとにそれが食べたい。
94	E-303-2F	すごくない? それ、何か。どういう。
95	E-303-1F	めっちゃチーズだよな。
96	E-303-2F	ね、どういう心境で作ったんだろうね。
97	E-303-1F	映え、映え目的。
98	E-303-2F	ああ、それか。映え目的か。
99	E-303-1F	うん。
100	E-303-2F	え、でも、チーズは、いいな。(ね) 何か、 <u>一時期さ、ブリーチーズにはまっていた</u> 。あの、白カビチーズなんだけど、普通の、何か。
101	E-303-1F	ブルーチーズ?
102	E-303-2F	ブリー。
103	E-303-1F	何、それ。
104	E-303-2F	何か、ただの白カビ、カマンベールもブリーチーズの一種なんだけど、(へえ) 何か、白カビなのよ、あれって、ブリーって。(うん) 何か、ほんとに、白いカビが生えている、もう、言い方悪いな。白カビのチーズなんだけど、それを買って、こういうカットで。(うん) まあ、安くはないんだけど、(うん) 買って、シンガポール時代に。で、クラッカー買って、ずっと食べてたの、それで。

会話例3 素直に「おいしい」と言えない (W-105-01)		
44	W-105-2M	何かわざとらしいやん。だからよく外食行っってさ、すごい、おっ、えっ、めっちゃおいしいとか言ってる人いるけどさ。
45	W-105-1M	それでも出てるんじゃないの。それ、うまいと思って。
46	W-105-2M	だから言わんとあかんのかなーって。
47	W-105-1M	うわ、うまーって、何か反射的にうまみたいな。
48	W-105-2M	いや、だからたぶんそういうのは自分がお金払って食べてるもののおいしいくないのは、嫌やっていう思いから。
49	W-105-1M	めっちゃ、ひねくれてるやん。あははははいや、 <u>だからこの前も香川に行って、うどんを食べてんけど</u> 、(はいはいはいはい)で、やっぱり何件も回るやん?(おー) やっぱり必然的にあの味がどうこうじゃなくて1番最初に食べたうどんが1番おいしくて、(あー) 1番最後に食べたうどんが満腹やから、1番おいしく感じられへんねんけど、(まあ、なるほど) なん、どこ行ってもおいしいって言う人が、その一緒にいた中にいて、(えー) 何か自分にこれはおいしいものやって言い聞かせてんのかなーと思って、(あはははは) 結構その俺と一緒にドライなやつもいるからさ、(あー) やっぱり1日に1回、あ、1杯か2杯でいいよなーみたいなの、(あーあーあー) 話をしながら食べんねん。(はーはー) まあ、おいしいけど。(おー) 思ってたねん、ちゃんと、(あー、はいはい) おいしいとは。けど、やっぱりそのつらいっていうか。

会話例4 究極は外食より家食 (E-309-01)		
1	E-309-1F	何か好きですか。 【66 発話省略】
68	E-309-2F	基本、なん、そんな食べることに注目してない。ご飯あんまり好きじゃないから。
69	E-309-1F	おいおいおいおい。そうなんだ。
70	E-309-2F	うん。
71	E-309-1F	<u>えー。でも、何かでも、たまに、だから、でも逆に、たまに、例えば友だちとか人と食べる、(あー) 外で食べるご飯がおいしく感じるとかいう感じかな。(うん) でもあたし、究極言うと、何か、外で食べるミートソーススパゲティよりも、家で食べるスパゲティのが好きなんですよ。</u>

104でE-303-2Fが「て」「けど」などに加え、「白カビなのよ、あれって、ブリーって」「買って、シンガポール時代に」「ずっと食べてたの、それで」のような発話文の倒置によってターンを長くしている様子が見られる。このような手続きB3は、会話例1~4全てに出現している。

また、発話冒頭で談話標識を表示する手続きB1は手続きAとともに使用されることも多いが、Aの内容予告なしでも使用される。J-TOCCでは、長いターンの8割以上で手続きB1が使用されており、接触場面会話における日本語母語話者に比べ有意に多かった($\chi^2(1)=256.326, p<.01, \phi=0.600$)。これは、1会話あたりの時間の違いによるものと考えられる。接触場面会話の平均44分間に対し、J-TOCCは1組5分間であるが、長いターンの出現割合は5%前後であり変わらない。J-TOCCでは、5分間でテキスト内話題が細かく変化する際に、談話標識の多用によって談話構造の区切りを示すことでターンが長くなっている可能性がある。

会話例3では手続きAとともにB1が使用されており、50でW-105-2Mが「いや、だから」で発話を開始している。この談話標識の使用は48の発話とも共通しており、素直に「おいしい」と言えればいいという会話相手のW-105-1Mに対し「いや」で反論することを表明し、「だから」で理由を繰り返し説明している。会話例4には手続きAがなく、71でE-309-1Fが「えー。でも、何かでも」で発話を開始している。この会話では、1でE-309-1Fによる好きな食べ物についての質問があり、省略した66発話ではE-309-2Fの答えから食べ方についての話題が発展する。71の「えー。」でそれらが一段落したため、E-309-1Fは「でも」で話題を戻し、「何か」でまだ語られていない自分の好きな食べ物についての情報提供を開始している⁵。

手続きB1については、接触場面会話において日本語母語話者の使用が非母語話者の使用に比べ有意に多かったとされている(花村, 2022)。このような談話標識については、物語を語る際の効果的な表現としては言語教育の指導項目に加えられていないが、長いターンの合図としては意識的に使用できるため、習得しがいのある有用な手続きであると言える。

5. 今後の課題

本発表では、発話の冒頭における内容の予告や、談話標識による前提や補足の提示といった、日本語母語話者による長いターンの構成を示した。これらが外国語学習における学習項目として参考になる可能性はあるが、母語話者と非母語話者の会話を比較した柳田(2023)では、母語話者の冗長な発話の意図が聞き手に伝わりにくい可能性があり、日本語教育においては自然な談話構成とのバランスを考慮した指導が必要だと言われている。また、物語の聞き手としての行為や、先行文脈とのつながりを考慮した物語の導入についても指導の必要性が指摘され(中井, 2005; 張, 2019)、これらの点を踏まえた分析が今後の課題となる。さらに、話題精通度⁶と発話数との相関について、「食べること」に関してはほとんど認められていない(森, 2023)が、長いターン数との相関についても同様である($r=.08$)。ただし、精通度5を付けた話者の長いターン数の平均値(2.69)は、精通度4以下の話者の長いターン数の平均値(2.23)を大きく上回っており、他の話題での検証が必要である。

参考文献

- Brown, Gillian & Yule, George (1983). *Teaching the Spoken Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 花村博司 (2022). 日本語の接触場面会話における長いターンの維持—使用される手続きの位置と表現—APU 言語研究論叢, 7, 75-90.
- 林誠 (2008). 相互行為の資源としての投射と文法—指示詞「あれ」の行為投射用法をめぐって— 社会言語科学, 10(2), 16-28.
- 岩崎勝一・大野剛 (2007). 「即時文」・「非即時文」—言語学の方法論と既成概念— 串田秀也・定延利之・伝康晴(編) 時間の中の文と発話 ひつじ書房 pp.135-157.
- 木田真理・小玉安恵 (2001). 上級日本語学習者の口頭ナラティブ能力の分析—雑談の場での経験談の談話指導に向けて— 日本語国際センター紀要, 11, 31-49.
- 串田秀也 (2006). 相互行為秩序と会話分析—「話し手」と「共—成員性」をめぐる参加の組織化— 世界思想社
- 森篤嗣 (2023). 話題精通度と言語表現の出現傾向の関係 中俣尚己(編) 話題別コーパスが拓く日本語教育と日本語学 ひつじ書房 pp.159-176.
- 中井陽子 (2005). 談話分析の視点を生かした会話授業—ストーリーテリングの技能指導の実践報告— 日本語教育, 126, 94-103.
- 中俣尚己 (2021). 日本語話題別会話コーパス: J-TOCC 解説資料 http://nakamata.info/database/j_tocc_document.pdf (2024年12月14日確認)
- Sacks, Harvey (1974). An analysis of the course of a joke's telling in conversation. In: Richard Bauman and Joel Sherzer (eds.) *Explorations in the ethnography of speaking*, 337-353. Cambridge: Cambridge University Press.
- Schegloff, Emanuel A. (1980). Preliminaries to Preliminaries: 'Can I ask you a question?'. *Sociological Inquiry*, 50(3-4): 104-152.
- 戸江哲理 (2008). 糸口質問連鎖 社会言語科学, 10(2), 135-145.
- 柳田直美 (2023). ことばをつなげて長く話すコツ 俵山雄司(編) 自由に話せる会話シラバス くろしお出版 pp.165-182.
- 吉島茂・大橋理枝(訳・編) (2004). 外国語教育Ⅱ—外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠— 日本語版 朝日出版社
- 張末未 (2019). 日本語の雑談における「物語」の導入方法—日本語母語場面と日中接触場面の相違— 早稲田大学大学院教育学研究科 紀要, 別冊 26(2), 179-190.
- 張末未 (2022). 日本語の雑談の物語開始における談話標識の使用傾向—「あー、そう、でも、なんか」のしくみ— 日本語の研究, 18(2), 55-72.

⁵ 張(2022)では、複数の談話標識の使用順序の傾向について、それぞれの機能が分析されている。

⁶ それぞれの話題についてどれだけ詳しいか、あるいはどれだけ自信を持って話すことができたかを5段階で自己評価したもの。